

令和元年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	公明党室蘭市議会
議員名	細川 昭広、砂田 尚子、柏木 隆寿
調査実施年月日	令和元年6月27日(木)
調査先 自治体名等	大阪府吹田市
調査項目	「千里南公園パークカフェ整備事業について」
調査目的	市立総合体育館(宮の森町)が入江地区に移転改築される方針となった。現体育館跡地については具体的な活用策は明言されていない。公共施設の建替えが続く本市の厳しい財政状況では新たな事業化は難しいので民間活力導入によるパークPFIでの公園整備による市民の憩いの場づくりも検討課題となるため調査し本市の施策に活かす。
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要</p> <p>人口:371,341人 (H30.10.1現在) 行政面積:36.09km²</p> <p>2 視察内容</p> <p>吹田市は行政面積が36.09km²とコンパクトで市域全域が市街化区域であり、世帯の7割が共同住宅生活をしている近隣への通勤者が多いベッドタウン。保育園児と幼稚園児の比率も4:6と、共働き家庭の割合が平均より少なく転勤族が多い地域特性がある。緑被率は26.1%、公園等の全面積3.59km²で総合公園が千里南公園を含め3か所、地区公園3か所、近隣公園15か所、街区公園111か所、遊園339か所となっており市民一人当たりの都市公園面積は8.8m²、公園の維持管理費は平成28年度約4.3億円となっている。平成29年6月に都市公園法改正でPark-PFI制度が創設された。内容は飲食店、売店などの公園利用者の利便性の向上に資する公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用して、その周辺の園路、広場などの公共部分の整備、改修などを一体的に行う者を、公募により選定する「公募設置管理制度(Park-PFI)」である。吹田市は国の動向を注視しつつ平成28年4月から「千里南公園パークカフェ整備事業」事業スキームの検討を進めていた。駐車場整備費などに約4,000万円のかかったが、事業者からの使用料収入年間150万円と駐車場収入年間550万円のトータル年700万円の収益を公園整備基金に積み立てて維持管理している。</p>
感想(まとめ) 本市へ活かせること等	<p>Park-PFI制度が創設された背景としてこれまで経済成長、人口増加、無秩序に都市開発を実施してきた結果、都市公園数が大幅に増加し、昭和35年度には全国で約4,500か所、国民一人当たりの都市公園面積は2.1m²であったものが平成27年度には全国で約107,000か所、国民一人当たり10.3m²となっており維持管理費用が増大していること。一方で都市公園が有効活用されていない理由は老朽化による魅力低下と少子高齢化など社会情勢の変化に伴い役割も変わってきている現状がある。本市における公園整備費も限度があり優先順位で従前のおり整備するだけでは市民に有効活用される都市公園とはならない。民間の優良な投資を誘導し、公園利用者の利便性の向上を図るとともに、行政側の財政負担を軽減し、都市公園の質の向上を図ることが期待できるPark-PFIの活用も市民サービスの向上に資する取り組みと感じた。ただ実施に当たっては整備箇所も含めた市場調査と課題整理が必要であり、計画策定段階からコンサルの協力も必要と思う。</p>